

ユニバーサルサービス政策委員会（第25回） ご説明資料

KDDI株式会社

2022年 2月 15日

おもしろいほうの未来へ。

au

シンプルを、みんなに。

UQ mobile

君にピッタリの自由へ、一緒に。

povo

目次

1 ユニバーサルサービス交付金制度に基づく補填の在り方

2 具体的な補填額の算定方法

(1) 2022年度～2024年度における補填額の算定

(2) 2025年度以降における補填額の算定

目次

1 ユニバーサルサービス交付金制度に基づく補填の在り方

2 具体的な補填額の算定方法

(1) 2022年度～2024年度における補填額の算定

(2) 2025年度以降における補填額の算定

ワイヤレス固定電話による効率性向上の効果は
ユニバーサルサービス交付金制度に基づく補填額に反映すべき

ワイヤレス固定電話は、加入電話の提供が極めて不経済になる場合等に
効率性向上と将来にわたり電話を低廉に維持することを目的として実施するもの



国民経済全体の負担を最小化するため、その効率性向上の効果は
ユニバーサルサービス交付金制度に基づく補填額に反映する必要あり

ユニバーサルサービス交付金制度に基づく補填の在り方（2/2）

4

補填額の算定は、従前通りLRICモデルを用いて算定
補填額への効率性向上効果の反映方法は
LRICモデルでのワイレス固定電話反映有無に応じて検討

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
LRICモデル	① 第8次PSTN＋第9次IPモデル※ (次期モデル：ワイレス固定電話反映無)			② 第10次IPモデル (次々期モデル：今後検討)		
	※接続料は第8次PSTNモデルと第9次IPモデルの加重平均で算定。ユニバーサルサービス交付金制度に基づく補填の在り方については本委員会で検討。					



目次

1 ユニバーサルサービス交付金制度に基づく補填の在り方

2 具体的な補填額の算定方法

(1) 2022年度～2024年度における補填額の算定

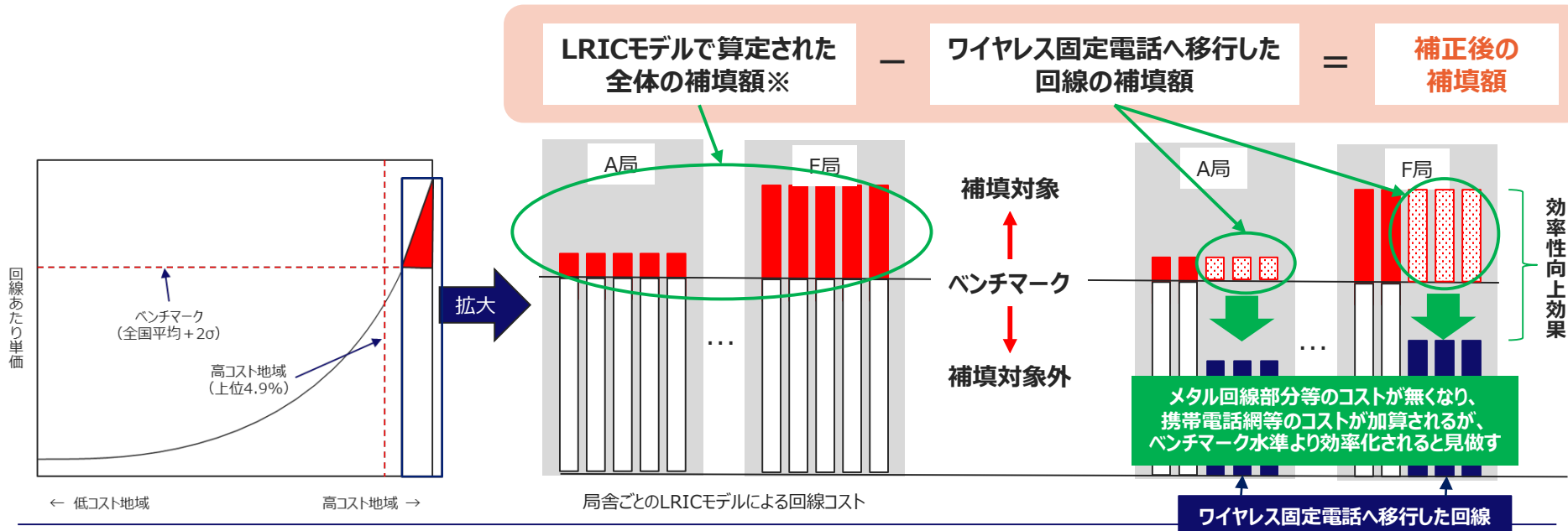
(2) 2025年度以降における補填額の算定

(1) 2022年度～2024年度における補填額の算定

6

ワイヤレス固定電話の効率性向上効果をモデル外で補正

- ワイヤレス固定電話は、ベンチマークを下回るコスト水準に効率化されるものと見做す
- ベンチマークを下回る場合はそもそも補填対象外であることから、ワイヤレス固定電話へ移行した回線分の補填額を全体の補填額(LRICモデルで算定された補填額)から控除し、効率化を反映



※ワイヤレス固定電話に移行した回線もメタル回線の需要としてLRICモデルで補填額を算定

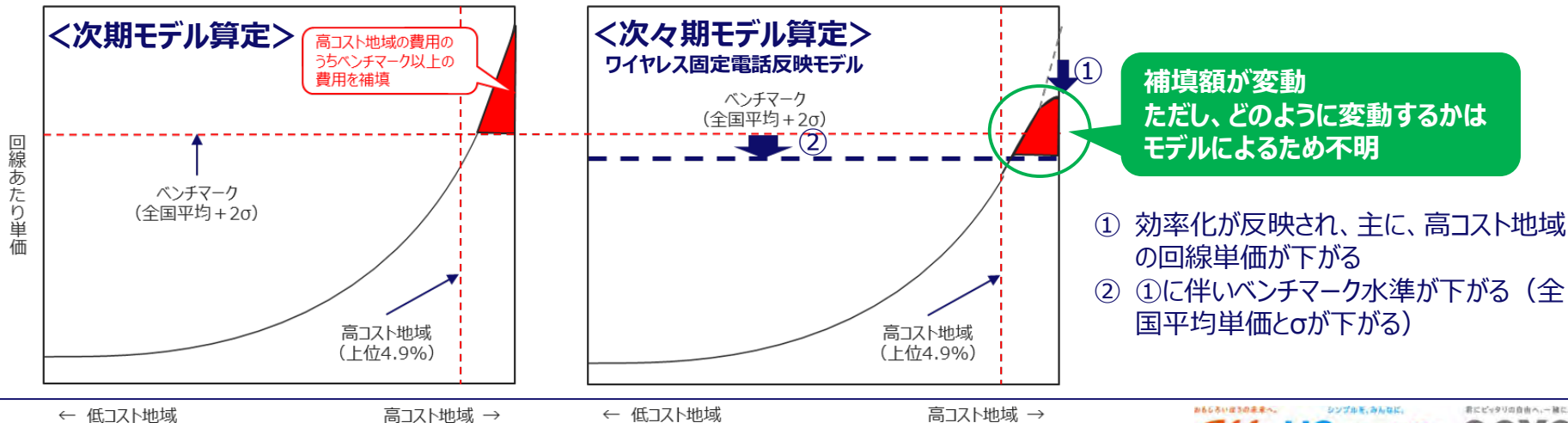
(2) 2025年度以降における補填額の算定

7

モデルでワイヤレス化を反映しない場合はモデル外での補正を継続

反映された場合はLRICモデルで補填額を算定することが基本
ただし、補填額に効率化の効果が及んでいるか検証が必要

- モデルにワイヤレス固定電話を反映しても、必ずしも算定された補填額に効率化の効果が及ぶとは限らない



おもしろいほうの未来へ。

au

シンプルを、みんなに。

UQ mobile

君にピッタリの自由へ、一緒に。

povo